

# 抜群のデザイン力とプランニング力で要望を実現。 ご家族みんなが嬉しい100%自由設計の家



外壁には赤レンガ調と、明るいオレンジ色で塗り壁調の、2種類のサイディングを使いました。ダイナミックな大屋根も目を引きます

## バリアフリーの住居で より充実した介護を

土浦市内に先月完成した高口邸の特色は、バリアフリーに配慮した家。いままで住んでおられたマンションではお母様の介護が十分に行き届かないため、新築を決意されたご主人。

この家では車いすの生活がしやすいよう、リハビリテーションや在宅療法などを専門とする茨城県立医療大学の先生方に相談し、設計段階からアドバースしていただきましたと、ご主人。

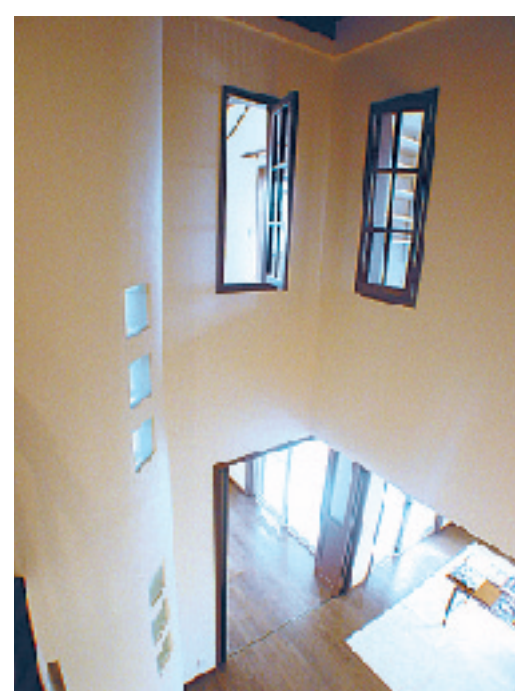
道路沿いのカーポートから玄関までのアプローチは、緩やかなスロープ。また、スロープと同じコンクリート敷きの遊歩道が、家をぐるりと囲むようにを巡らしてあり、車いすのまま庭の散歩も楽しむことができます。玄関ドアは両開きにして開口部を広くとりました。

1階部分は、家の中を車いすで自由に移動できるように、回遊性を持たせた間取りにしました。各部屋の出入口には引き戸や折れ戸を多用しており、床面はもちろん無段差です。

お母様の個室は玄関を入っですぐ左側。南面の窓際には、玄関からの続きになっているタイル敷きのテラスがあります。ここまで車いすですぐ直接乗り入れられ、さらに方向転換もできるよう、テラスの幅は120cmを確保しました。テラスと床との段差も、上がり降りがしやすいよう7cmに抑えてあります。

個室の中には専用のトイレもあります。出入口は間口78cmの引き違い戸。もし必要があれば、戸を2枚とも外してカーテンに変更することも可能だそうです。

**高性能な設備を満載した2,000万円台前半の家**  
高口邸はバリアフリーのほかにも、高性能で安全・快適な家であることをコンセプトにしています。構造は2×4で強度を確保し、地震対策のため長さ9mの鋼管杭40本を打ち込んで地盤を強化しました。土浦市の中心部は霞ヶ浦に近い低地なので、地下水位が高く地盤が軟弱なのだそうです。お年寄りには体温の調節機能が衰えるため、気温の変化に敏感です。そこで温度のバリアフリーを考え、空調にはBeハウス独自のAFS(エア・フレッシン



(左)3階は多目的に使える広いファミリールーム。床の一部は木製のグレーチング(スノコ張り)で仕上げられています  
(右上)お母様の部屋。タイル張りの通路はサンルームの役目も果たします  
(右下)吹き抜けに面した窓から、どこにいても家族の声が届きやすい構造



ディスプレイ柄のタイルがかわいいシステムキッチン。お嬢様と一緒に料理ができるよう、幅広いタイプにしました



(左)コの字型とし字型を併用した階段。擁壁や蹴上げを入れないのは、デザイン的美しさと通気性に配慮したため  
(右)3階まで続く高い吹き抜け。日中はトップライトからの光がリビングに届きます



システム)を採用。空気の循環により全館が一定の温度に保たれます。気密・断熱性では次世代省エネ基準をクリア。太陽光発電を取り入れてオール電化住宅も実現しました。  
大手ハウスメーカー、輸入住宅やログハウスの会社、地元工務店など5〜6社を見て回ったという高口さんご一家。その中でBeハウスに決めたのは「飯田社長のプランがずば抜けていた」という理由からです。  
「最初の打ち合わせで家族構成や要望をお伝えしたところ、その場でラフスケッチを描いてくださり、それが一目で気に入られました。また、以前に手掛けた家でもいくつか見学したのですが、その中でよく目にした大屋根のデザインも私の好みでした」とご主人。  
基本プランは飯田社長のものをほとんどそのまま生かし、詳細については設計士の猿田さんと20回以上も打ち合わせを重ねて詰めていったそうです。  
「吹き抜けが1階から3階にまで及ぶ、明るく風通しの良い空間は飯田社長の提案です。小屋裏などのわずかな隙間も、収納やロフトとして最大限に有効利用していただきました。細かいところまで私たち家族の要望に合わせた、100%オリジナル設計の家になったと思います」とご主人。

(取材/池田充雄)

**Be**ハウス

—デザイナーとつくる家—

<http://www.behouse.jp/>

■建物面積 183.44㎡(55.49坪)